

# 委員会行政視察報告書

委員会名	厚生文教常任委員会
出席委員等	堀口武視 委員長、澁谷昌子 副委員長、松田英世 委員、田畑 仁 委員、梶本茂躰 委員、河部 優 委員、中尾広城 委員、成田政彦 委員、松本雪美 委員 【随員】塩谷周平（議会事務局）
実施年月日	平成26年8月11日（月）～12日（火）
視察先	岩手県北上市（8/11） 岩手県盛岡市（8/12）
視察項目	北上市「北上市観光行政について」 盛岡市「盛岡市立小中学校学校給食基本方針について」
視察内容	
<p>●岩手県北上市（8/11）</p> <p>最初に、北上市議会事務局長より歓迎の挨拶を受け、担当課長より「北上市観光行政について」説明を受ける。</p> <p>北上市では、昭和30年より企業誘致を進めており、現在8つの工業団地、流通センター、産業業務団地に254の企業が集積している。県内でも製造品出荷額が毎年上位となるなど、東北有数の企業集積地であり、今回、北上市で行われている観光施策の中の一つである「ものづくり観光」について説明を受ける。</p> <p>「ものづくり観光」とは、市内の工場において「ものづくり」の現場を見学する、観光+学びや体験を加えたものであり、ニューツーリズムの一つとして従来の観光とは趣が異なり、人の気持ちや知性を刺激する新鮮さにより、子どもから大人まで楽しめる観光である。</p> <p>平成19年に岩手ヤクルト工場が移転され、見学ルートを開設したことに合わせて、ものづくり観光を開始し、年数回における体験ツアーの実施及びパンフレットによるPRを行っているとのことであった。また、今後の課題としては見学企業先の拡充や、市民、企業、行政、観光業者らが連携した体制づくりが必要とのことでした。</p> <p>質疑では、事業費及び見学者において期待されるものは何か、との問いに、年間約40万円の事業費で、パンフレット及び観光パネルの製作を行っている。また、見学者においては、実際に現場を見学することにより製品への安心感や、企業への信頼、就職先の選択など、様々な効果があると考えているとのことでした。</p> <p>以上が北上市における視察の概要となります。</p>	

●岩手県盛岡市（8/ 1 2）

最初に、盛岡市議会事務局総務課長補佐より歓迎の挨拶を受け、担当課長より「盛岡市立小中学校学校給食基本方針について」説明を受ける。

盛岡市では、平成20年6月の学校給食法改正をきっかけに、現在及び将来の社会状況、学校給食の施設・設備の状況、市の財政状況の中でどのような施策を進めていくべきかを改めて明確にすべく、学校関係者、保護者、行政機関、学識経験者で組織する盛岡市学校給食検討会を設置し、盛岡市立小中学校の学校給食の今後のあり方について、調査検討を行う。約2年間で8回の会議を開催し、盛岡市学校給食検討会報告書を作成、その後、報告書で示された方向性を土台として、基本方針の策定に至る。

基本方針の概要としては、全ての小中学校において選択制給食を含む完全給食を実施するほか、献立の作成における基本的な考え方や、食物アレルギーへの対応、調理場施設の整備を徹底するなど、様々な項目が取り上げられる。

今後の課題としては、調理場の老朽化への対応、人員体制の見直し、食物アレルギーにおける対象児童生徒数の把握などが上げられる。

質疑では、事業費及び選択制給食の割合についてはどの程度か、との問いに、平成26年度予算では学校給食関係予算として10億540万1千円を計上している。また、選択制給食の割合は約40%が給食を選択しており、ほかの60%は弁当を持参している状況であるとのことでした。ほかには、単独調理の方がセンター方式よりも安いのはなぜか、との問いに、設定した給食費に対して、選ぶ食材により値段が上下するためであるとのことでした。

以上が、盛岡市における視察の概要となります。

■総括

2日間両日にわたる視察については、時間的配分の厳しい日程の中、実施しましたが、それぞれの市の担当職員による説明に対し、各委員から活発な質疑が行われ、全体的に充実した内容であり、十分に所期の目的を達成することができたと考えております。

今回の視察により得た内容については、今後の市政に反映させるとともに、市の発展につなげていきたいと考えております。

上記のとおり報告いたします。なお、資料等については、別添のとおりです。

平成26年8月22日  
厚生文教常任委員会  
委員長 堀口 武視

●北上市視察



議会事務局長より歓迎の挨拶



堀口委員長より挨拶



会議風景



北上市役所にて

●盛岡市視察



堀口委員長より挨拶



会議風景



澁谷副委員長よりお礼の挨拶



盛岡市役所にて